

全粧協関東ブロック

第63回ブロック大会を開催
新ブロック長に吉川良雄氏(栃木)が就任

全粧協関東ブロックは7月2日、第63回「全粧協関東ブロック大会」を都内ホテルにて開催した。当日は来賓を含めて100名を超える出席者が詰めかけた。当日は、第一部で「2020年に向かって専門店とは？」をテーマにパネルディスカッションを行い、第二部では大会、第三部では懇親会が行われた。

1都6県粧協の代表が
「2020年に向けて」を
議題にディスカッション

第一部のディスカッションでは、資生堂の田中聡プレスエージブランド事業本部第一事業部長が司会進行を務めるかたちで、1都6県粧協の代表者7名が白熱した議論を繰り広げた。

第一部のディスカッションは、各都県粧協の代表者から、「資生堂がプラチナショップセミナーにおいて、美容部員を正規社員にし、美容部員の評価体系を変えようと言及したのを目の当たりにし、本気度を感じた。それを踏まえて、5年後の2020年は、国内化粧品専門店の店頭売上は120%になると希望を持っている。この20〜30年の間に、日本に上陸したばかりのクリニークが売上げを一気に伸ばして各店を首位の座を奪取し、アルビオンが各地の百貨店・専門店で驚異的な成長を遂げたことの本当の理由



山口全粧協理事長

社会変化への対応の重要性を強調

続いて、山口喜兵全粧協理事長による挨拶の後、加藤聡全粧協専務理事による本部報告が行われた。

山口理事長は、社会変



関口ブロック長



吉川 新ブロック長

それを活かして、全粧協のテーマである『真の専門店』に向け、接客やサービスの質をさらに高めていくことが重要だ」と述べた。

2015年度については、現場の声を把握し、情報交換の頻度を高めるとともに、ブロック所属の1275名の組合員の活動をバックアップしていく。なお、大会終盤では、新ブロック長に吉川良雄氏(栃木)が選出され、次年度の当番県が埼玉県となったことが報告された。

記者の窓

こんなイベントは見たことがない。福島市民家園を舞台にした音楽イベント「FOR座REST」のことだ。

森の中に茅葺き屋根の古民家が点在する独特な雰囲気の中で、ワークショップやフリーライブが行われる。地元でも伝説的なイベントとして知られている。このイベントが先週

福島の魅力

このイベントの最大の特徴は、「とことん住民参加型」に徹している点にある。営利は度外視で、何から何まで住民たちの手で企画運

営されている。出演アーティストや出店のセ恩斯も上質だ。これだけ大規模なイベントだったら、ゴミが散乱していたり、混雑がひどいという状況が散見されることがある。ただ、実はそんな心の内には「こたわり」や「頑固さ」も秘かに持ち合わせているという。一体感があり、かつ上質なモノを生み出す文化が根付いている福島がぐっと近づき、そして好きになった(近



山口全粧協理事長



加藤専務理事

全国で1300万人いると言われる自立高齢者層(在宅の健康高齢者)のQOL向上を図っていく。

自由な飛び回って蜜を集めて来る『蜂蜜商法』に切り替えることだ。コンビニエンスストアが宅配をするようになり、メーカーがインターネットで化粧品を売るようになってきた今、極論すればカウ

最後に登壇した加藤専務理事は、香川県粧協と資生堂がタッグを組んで取り組む自立高齢者支援「いきいきお化粧プログラム」について説明した。同プログラムは、専門店の意義と高齢化社会への対応を踏まえた店頭プ

は2兆円と言われ、今後は3〜4兆円になると予想されているが、それをうまく取り込んでいくことも重要だろう。最も取り組んでもらいたいのが、PB商品『KIRYO』の育成だ。我々しか扱えないこの商材を愛して好きになって欲しい。そうすれば必ず売れる」と挨拶した。

プログラムで、地域に根